

社会学部創立40周年記念特集

社会学部創立40周年記念事業「Sociology Next 40」事業一覧

シンポジウム「食の未来」記録

小論文・メディアコンテンツコンテスト準グランプリ作品

ゼミ・実習研究発表会 報告概要

社会学部創立40周年記念事業の記録にあたって

学部創立40周年を迎えた2007年の早々から、社会学部は創立40周年記念事業実行委員会を立ち上げ、ベテランも中堅も若手も学部教員が折々に集まり、現状認識を出し合い、学部として意義のある記念事業にするにはどうしたらよいかを巡って、幾度となく議論を重ねてきた。そこで話され、やがて共通の認識となったのは、40周年を単に過去を懐かしむためのものではなく、また単に記念の祭典を行ってよしとするのでもなく、2007年度1年間を通じて、今後の教育・研究のあり方を考え、議論する機会にしようということであった。そうして40周年記念事業は、これが未来に向けての礎となるようにとの希望を込めて「Sociology Next40」と名づけられた。

年間を通じての講演会やシンポジウムは、3月31日のシンポジウム「Jリーグとまちづくり・人づくり」を皮切りに、10月に開催されたフェスティバル当日の講演会とシンポジウムまで文字通り連続的に行われ、関西大学社会学部が何を目指し、学生に何を学んでほしいかを示すことができたと思う。そのすべての記録をここに掲載することができれば、それに勝ることはないが、量的にもあまりに膨大であり、その計画はあきらめざるをえなかった。

では、何を記録として掲載するか。実行委員会での議論を経て、私たちはもうひとつの重要な共通認識を持つにいたっていた。学部の教育体制に関して私たちは、第三者評価が始まるずっと以前から、つねに検証を重ね、最善の体制になるように常に工夫・改善を重ねてきたし、またその成果は学生の満足感となって表れている。ただ、そのことが外部の人々にはあまり伝わっていないように思われる、という認識である。この共通認識に基づいて、私たち実行委員会は高校生および関西大学在学学生を対象に「小論文・メディアコンテンツコンテスト」を実施し、また10月のフェスティバル両日にも「ゼミ・実習研究発表会」を実施して、学生が日頃、教員や学生仲間から学んだこと、考えたこと、調べたことなど、その研究成果を公開の場で発表できる機会を設けることにした。そのような場で報告された研究や作品は、学生同士のみならず、教師にとっても、誇張でなく、よい刺激となったし、学部の実質部分が学生にあるとすれば、それは社会学部の現在をそのまま表現するものであったといってもよい。

以上を踏まえて、実行委員会は「40周年記念特集号」にふさわしい記録として、記念事業一覧のほか、社会学部教員が主要なパネリストとして参加したシンポジウム「食の未来」の記録、小論文・メディアコンテンツコンテストで準グランプリを受賞した社会学部学生の研究論文、および「ゼミ・実習研究発表会」で報告された研究の概要を掲載することにした。これが単なる企画の記録としてではなく、わずかでも社会学部40周年のテーマでもあるNext40に向けての糧となることを祈りたい。

(社会学部40周年記念事業実行委員長・副学部長 山本雄二)